


## 正 誤 表

「整形外科専門医テキスト」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
158	目次左段最下行	A. 先天性足変形 ..... 811	A. 先天性足変形 .....大関 覚 811
102	図 2-51 のネーム	図 2-51 橈骨遠位端骨折の変形表記のパラメータ (Van Der Linden W et al: J Bone Joint Surg 63A: 1285-1291, 1981 より)	図 2-51 橈骨遠位端骨折変形評価のパラメータ A: volar tilt. 橈骨の長軸に対する垂線と、橈骨手関節面の背側縁、掌側縁を結ぶ線とのなす角。正常は volar tilt 11° . 図のように掌側に傾いている場合は volar tilt, Colles 骨折の場合のように背側に傾いているときは dorsal tilt あるいは volar tilt と呼ぶ B: ulnar tilt. 橈骨の長軸に対する垂線と、橈骨手関節面の橈側・尺側縁を結ぶ線とのなす角。正常は 23° (radial tilt と呼ぶのが一般的であるが、正しくは ulnar tilt というべきである). C: radial length. 尺骨頭の遠位面と橈骨茎状突起の段差を橈骨の長軸に平行な線上で計測した値。正常は 10mm. 対側と比較した数値を radial shortening と呼ぶ場合もある.

			<p>D: ulnar variance. 橈骨手根関節面尺側と尺骨遠位関節面の差を ulna variance と呼び、尺骨のほうが遠位に突出している場合に ulna plus variant ** mm と表記する。          (Van Der Linden W et al: J Bone Joint Surg Am 63: 1285-1291, 1981 より改変) .</p>
727	図 15-29	図 (写真) の矢印の位置	

2010年6月21日  
 株式会社南江堂